

令和4年度 障害者就労促進チャレンジ事業 事業報告書

令和4年度は、企業向け見学会を14回、障害者向け見学会を4回開催し、短期職場実習80件を実施することを目標とした。昨年度はコロナ禍でありオンラインを活用する等、感染予防対策をとりながら取り組んだ。今年度は対面での実施を意識し、支援機関も障害当事者も顔の見える関係性の重要性を感じる1年であった。参加者も対面の機会を望んでおり、本来あるべき形を徐々に戻すことで、対話による効果は大きかった。千葉労働局をはじめ、各ハローワークの協力により、法定雇用率未達成企業等への開催周知等が円滑になされたことにより、参加企業は見込み数を上回っており、ほぼ計画通り事業を遂行することができた。

1 企業等の理解促進（企業向け職場見学相談会）

・企業向け見学会

14圏域において開催した。多くのセンターが対面での実施となり、先駆的な取り組みをしている企業や今後雇用が伸びていくと思われる業種の企業等を見学し、その後相談会等を実施している。

全体で70企業149名が参加し、障害者雇用の理解促進が図られたことで、新たに障害者雇用を進めたいと希望する企業も複数あった。

2 障害のある人等の意識改革

今年度は3圏域で開催し、計37名の障害当事者、保護者、支援者等が参加し、企業見学・企業担当者や障害当事者との意見交換・参加者間の情報交換等を行った。

この見学会を経て今まで就業は難しいだろうと考えていた障害当事者やその周りの方が、就業に目を向ける良いきっかけとなり、障害者就業の在り方について前向きに検討する機会となった。

3 短期職場実習

企業支援員と協力しながら、実習受け入れ企業の開拓を行い、実習の斡旋調整を行った。結果として97企業、111名、延べ481日の実習を行うことが出来、実習をきっかけに就職された方は63名となっている。

コロナ禍ではあったが障害者法定雇用率の引き上げなどもあり、企業側の意識の高まりを感じた。短期職場実習を通じて実際に雇用につながるケースも多くあり、事業の効果は大きかった。

